

進行・再発胃癌

weekly PTX療法レジメン

weekly パクリタキセル療法レジメン

G-01

1コース：28日間 7日間隔の3週投与1週休薬

治療日		第1日目	第2～7日目	第8日目	第9～14日目	第15日目	第16～28日目
治療内容							
検査	採血	○		○		○	
診療							
治療中止基準	①各クール開始時の投与前 白血球数3000未満または好中球数1500未満 ②同一クール内投与前 白血球数2000未満または好中球数1000未満	—		—		—	
プレメディケーション	(ネオマレルミンTR錠のかわりにポララミン注)						
点滴	①生食100ml +デカドロン3.3mg 2A +ファモチジン静注20mg 1A +ポララミン注5mg 1A 点滴静注【30分】	○		○		○	
	②パクリタキセル注 (80mg/m ²) 生理食塩液250ml 点滴静注【1時間以上】 フィルター付きルートで	○		○		○	
	③生食50ml ルートフラッシュ用(全開)	○		○		○	

減量基準 投与後白血球が1000/mm³未満なら次回の投与量を減量。または重篤な末梢神経障害が発現した場合は、次回の投与量を骨髄抑制の減量の目安に従い減量する。
通常投与量100mg/m² 1段階減量80mg/m² 2段階減量60mg/m²

看護のPoint!!

パクリタキセルは血管外漏出すると大変!! 点滴中は漏れてないか確認。

パクリタキセルが万が一もれていたら一旦中止して先生を呼ぶ

患部を冷やす。クロベタゾールフロピオン酸エステル軟膏(強力なステロイド軟膏)を塗る

アレルギー症状(皮膚異常や顔面紅潮、呼吸困難感など)でたら先生に伝える。

だからファモチジン静注とポララミン注を前投与する。(眠気注意)

長期投与で手足のしびれが起こりやすい。

パクリタキセルの投与時間は1時間以上かければ大丈夫

DEHPフリーの輸液セットでかつ、0.22μm以下のインラインフィルターを通して投与すること。

通常の自然滴下の投与速度で設定すると遅くなりやすいので、速度の調整が必要みたい。

第29日目

○

-

○

○

○